

令和8年 5月 22日

学校名 鈴鹿市立鈴西小学校
学校長名 水野 高伸

令和8年度 校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

「対話を通して、主体的に粘り強く課題に向かい解決していく子の育成」

教科・領域：算数科

2 主題設定の理由

(1) 昨年度までの研修について

本校の児童は、穏やかで優しく、与えられた課題に対して一生懸命取り組もうとすることが多い。一方、向上心はあるが、自分たちで新しいものを考えたり、今あるものをさらにより良く工夫していったりするための思考や粘り強さは低いように思う。算数科においては、自ら問いをたてたり、課題を見つけたりする力が弱く、日常生活や授業の中でも、主体的・対話的に学ぶ姿が十分できているとは言い難い状況である。また、児童数の減少に伴いクラス替えが行われることが無くなり、人間関係の固定化が起こり、いろいろな人と関わる機会が減っている。学習と人権教育の両面からこどもたちの課題を捉えていくことが、今後益々大切になってくるだろう。

本校は2025年度より、研修主題を「対話を通して、主体的に粘り強く課題に向かい解決していく子の育成」に設定して校内研究を推進してきた。

特に「対話を通して」「主体的に」の言葉をキーワードとして、算数科において取り組んできた。

成果としては、「主体的に」について、明確で適切な課題設定と、課題提示の工夫、前時までの既習事項がすぐに確認できるような工夫、自力解決が難しいこどもたちが課題解決のための見通しがもてるようなヒントカードの準備、わからない時にわからないと言え合えるようなクラスづくりなどが「主体的に」につながっていくことが共有できた。

「対話を通して」については、ペアやグループ活動を取り入れ、どの子と学んだら、よりよい学びになるかを考えさせた。また、それぞれのこどもたちが対話したいときに自由に動いて対話できるような授業スタイルを目指して仲間づくりを取り組んできた。主体的な姿が見られると、友だちに「教えて。」「わからん。」と何とか課題を解決しようと対話するこどもたちが増えてきた。また、言葉だけでなく、具体物を使ったり、図に表したり、ICTを活用したりした。ICTの活用では、自分の考えを画面上で操作しながら、説明できるようにするなど、言葉だけでは伝えることが難しい子でも、具体物やICTを操作しながら伝えることで、わかりやすく伝えることができた。一方で、対話はあるものの、課題解決のための思考の仕方を伝えているこどもとそれを聞いているこどもとの対話

にズレを感じた。特に CD 層の子どもたちは、何となくわかったような気になっているが、思考の仕方を確実に理解できていない。また、伝える子どもたちも、相手の理解を確認しながら対話できていない。このようななんとなくの対話ではなく、「わからんからもう一回言って。」「なんでそうなるの?」「どういう意味?」などと対話にこだわることで理解の定着や考えを深めることにつながると考える。

このようなことから、今年度は、「対話を通して」に重きをおきながら、伝え方や言葉にこだわり、仲間と関わり合いながら、目的をもった対話を意識させ、課題を確実に解決していき、考えを深められる子どもを育成しようと考えた。

研修主題の言葉である「対話」「主体的」を具体的な子どもの姿として共通理解する。

「対話」

低	中	高
<ul style="list-style-type: none"> ・わからないと仲間に伝える ・考え方を仲間に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何がわからないかを伝える。 ・相手のことを考えて、考えを伝える。 ・仲間の考えを比較しながら話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解決に向けた疑問点についてたずね、仲間と話し合うことで問題を解決する。 ・仲間の考えから、考え方を比較し、いくつかの考え方についての根拠にもとづきながら、それぞれのよさを話し合う。 ・相手の疑問に応じて、適切と思われる考え方を、算数科のキーワードを使って説明する。

「主体的」

低	中	高
<ul style="list-style-type: none"> ・学習する内容をわかっている。 ・学習の準備が整っている。 ・授業中に、考えを伝えようとしている。 ・わからないところをわからないとつたえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項をもとに考えようとしている。 ・自分で課題を設定しようとする。 ・振り返りができる。 ・諦めずに何度も挑戦できる。 ・担任の指示の前に、行動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習や復習の必要性がわかっている。 ・自主学習ができる。 ・既習事項を活かして、よりよい方法を選択することができる。 ・自分に必要な学習や苦手なところがわかっている。 ・2人以上の仲間の考えを理解して、比較、精査し、自分の疑問に合致するものを選択できる。

3 研究内容及び方法(今年度の取組)

3.1 研究構想

【学校教育目標】 仲間と関わり合いながら確かな学力と人権感覚を身につけ、たくましく生きる子の育成										
【めざすこども像】 ・ 確かな学力を身につける子 ・ 人権感覚を身につける子 ・ たくましい子										
【研究主題】 対話を通して、主体的に粘り強く課題に向かい解決していく子の育成										
【研究目標】 ① 算数科において、対話を通して、主体的に粘り強く課題に向かえるような指導内容や指導方法を探求する。 ② ICT を活用した効果的な学習方法、基礎基本の定着を図り、確かな学力向上に繋がる指導・手立てを検討する。	【めざすこどもの姿】 ① 自分の思いや考えを主体的に伝え合うことができる子 ② 習得した知識・技能を積極的に活用しようとする子 ③ 粘り強く問い続け、より良い考えを導こうとする子									
【主な研究内容とその手立て】 (1) 対話を通して、主体的に粘り強く課題に向かう子の育成を目指した取組 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"><tr><td style="width: 50%;">① 課題の工夫</td><td style="width: 50%;">② 対話を通して</td></tr><tr><td>③ 選択する力</td><td>④ ICT の活用</td></tr></table>		① 課題の工夫	② 対話を通して	③ 選択する力	④ ICT の活用					
① 課題の工夫	② 対話を通して									
③ 選択する力	④ ICT の活用									
(2) 学力向上に向けての取り組み <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"><tr><td>① 読書活動の充実</td><td>② 家庭学習の取組</td><td>③ チャレンジタイムの取組</td></tr><tr><td>④ モジュール学習の充実</td><td>⑤ 全国学力学習状況調査の分析</td><td>⑥ 非認知能力の育成</td></tr><tr><td colspan="3">⑦ よむ YOMU ワークシート、読む・書くワークシートの活用</td></tr></table>		① 読書活動の充実	② 家庭学習の取組	③ チャレンジタイムの取組	④ モジュール学習の充実	⑤ 全国学力学習状況調査の分析	⑥ 非認知能力の育成	⑦ よむ YOMU ワークシート、読む・書くワークシートの活用		
① 読書活動の充実	② 家庭学習の取組	③ チャレンジタイムの取組								
④ モジュール学習の充実	⑤ 全国学力学習状況調査の分析	⑥ 非認知能力の育成								
⑦ よむ YOMU ワークシート、読む・書くワークシートの活用										

3.2具体的な取組

(1)研修主題に向けての取組

① 課題設定の工夫

教科書の課題が身近な生活についての課題になるような工夫、動画などで課題を提示するなど、既習事項を活用しながら探求心が高まるような課題設定や提示の仕方を考える。また、課題と前時までの学習をつなげることができるような導入を考え、授業を展開していく。そうすることで、スムーズに展開できる。また、ひとりで考えることが難しいときのヒントとなる。これらの課題の工夫が主体的に学ぶ姿につながっていく。

② 対話を通して、学習を進める

・ペア・グループでの対話

子どもたち一人ひとりが自分の知りたいことに応じて活動できるように、ペアやグループ活動を適宜取り入れる。また、考え方などを対話しながら学習を進めていけるよう授業づくりを行う。対話しながら学習することで、協働的な学びとなる。協働的な学びが確実な学力の定着につながるよう、対話が子ども同士の相互理解になっているかにこだわるよう問いかけていく。このような環境が整うことで、子どもたちの意欲が増進し、深い学びへとつながる。

・わからない・間違いを大切に作るクラスづくり

学級全体が、間違いを受け入れてもらえる環境であることが必要である。考えが違ったときの児童の反応や、問題を間違えてしまった子どもへの教師の反応など、日頃の授業の中で心理的安全性を意識して学級づくりに取り組んでいく。また、間違いから新たに気づけることがあったり、学びが深まったりしていけるような授業展開をすることが必要である。また、グループ活動を取り入れることにより、「わからない」が言いやすい環境づくりを意識している。

・対話のルール

対話を通して学習を進めていくためには、対話のルールや話型の提示などを丁寧に指導していく必要がある。ルールは次の通りである。「相手の話は最後まで聞く」「相手の意見を否定しない」などである。また、グループでの対話では、それぞれの考え方を伝えるだけでなく、「似ているところ」や「違うところ」のように考え方を比較したり、精査したりなど視点をもって話し合えるように指導していく。

③ 選択する力

・課題解決の選択

課題を解決するための方法をいくつか選択できるような授業づくりを行う。また、考えを説明する際にも、説明方法を選択できるようにする。一つの答えを導く際に、様々なアプローチの仕方があり、考え方を伝える際にもいろいろな方法があることを学ぶことができる。また、考えの違う子、考えが似ている子、よく理解している子など、対話を通して誰と学ぶかを自分で選択できるようにしている。

・ノートの手書き方

既習事項を活かすために、考え方やわかったことを記録に残し、いつでも振り返られるようなノートをつくっていく。見やすく、大切なところが一目でわかるノートづくりを目指していく。

④ ICT の活用

ICT を効果的に活用することにより、考えを可視化することができる。授業でどのような使い方ができるのか、どんなアプリが役立つのかなどを研究し、共有することで、個別最適で協働的な授業を探求していく。そのためにも情報担当教員を中心に研修会などを開き、職員のタブレット活用能力の向上を進めていきたい。

(2) 学力向上に向けての取組

① 読書活動の充実

- ・毎朝、モジュールで読書の時間を確保し、取り組む。
- ・週に1回程度、図書館で本を借りる習慣づけを各学級で工夫する。
- ・読書ボランティアによる読み聞かせを実施する。
- ・家庭学習の強化週間として読書活動を推進する。
- ・図書委員による読み聞かせを計画する。
- ・図書まつりを年間2回実施し、児童の読書に対する意欲向上を図る。
- ・おすすめ本として各学年に指定図書を紹介し、完読した児童への表彰を計画し、読書への意欲向上を図る。

② 家庭学習の取組

- ・家庭学習の手引きを保護者へ配布し、家庭学習の意義や家庭での取り組みませ方、時間の目安等を保護者に周知することで、学校と家庭が一体となった学力向上の取組を推進する。
- ・各学年の目安学習時間を確保する課題を設ける。毎日、国語・算数・音読を基本とする。

③ チャレンジタイムの設定

- ・月に1～2回、金曜日に短縮日課を行い、金曜日の7限目を確保する。チャレンジタイムとして、低学力の児童への支援を重視した時間を設ける。

④ モジュール学習の充実

毎週火曜日と金曜日に15分のモジュール学習を行う。15分という短い時間が効果的な時間となるようテンポを大切にす。毎日繰り返すことで集中力を高め、基礎基本の力を定着させていく。また、毎日のプリントをファイルに綴じていくことで、達成感へとつなげていく。

⑤ 全国学力・学習状況調査及びみえスタディチェックの分析

昨年度の学力学習状況調査の結果から見えてきた本校児童の課題は以下の通りである。

- ・問題文の記述が長くなったり、図や絵での情報がなかったりすると自分でイメージしにくい。問題文を読み取ることができない。
→課題理解を丁寧に行う。問題文の読み取りに、具体物を使って表したり、図に表したりなどして理解させる。読む・書くワークシートを活用する。
- ・立式の説明が苦手である。図や式を言葉で説明することができない。
→式が表す意味を理解していないこと多いので、式の数字や記号に合わせて、それが表す単位などを言葉の式で書かせたり、図や数直線を使ったりして、対話を通して自分の考えを説明する機会を増やす。
- ・分数の仕組みが理解できていない。
- ・速さを求める除法の式と商の意味を理解できていない。
→苦手な単元を把握し、何度も繰り返し演習を行う。

⑥ 非認知能力の育成

非認知能力について職員で共有するために校内研修を行う。事前アンケートの結果をもとに、授業の計画を立てるようにする。評価の方法として、振り返りの項目の中に、非認知能力に関係する項目を用意し、こどもたちに振り返らせる。学期や年度末にアンケートを行い、事前アンケートと比べ、変化をみていく。

授業の中で、鈴鹿市版「非認知能力」にある、やりぬく力、自制心、自己肯定感、社会性をはぐくむために、教師と児童がその価値を共有し、授業の中で意識付けていきたい。例えば、振り返りの中で、めあてに対する振り返りだけでなく、上記にあげた4つの非認知能力についても振り返らせる。

⑦ よむ YOMU ワークシート、読む・書くワークシートの活用

よむ YOMU ワークシート、読む・書くワークシートに取り組むことで、文章を読み取る力、問われていることに対しての答えを見つける力を育む。

4 年間研修計画

月	研修内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題、めざすこども像など本年度の方向性の検討・決定 ・学年の取組の計画、年間カリキュラムの作成 ・モジュール学習 ・たてわり班の作成 ・学力調査に係る取組 ・思考スキル

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の書き方の提案 ・スタディチェックに係る取組 ・モジュール学習 ・チャレンジタイム(22日)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会授業研究 (24日) ・チャレンジタイム(12日・26日)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイム(3日) ・児童アンケート検討
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区研修会 ・2学期研修・2学期からの研修について ・人権レポート研修会 ・他校研究会や研修会、鈴教研への参加
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイム(18日)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会授業研究(1日) ・チャレンジタイム(2日)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会人権授業研究 ・校内研修会授業研究(30日) ・チャレンジタイム(6日・27日)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイム(11日) ・児童アンケートの実施
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・人権レポート研修会 ・チャレンジタイム(22日)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイム(5日・19日)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果と課題について ・次年度に向けて